

ハーモニー



(第38号)

問合せ先 企画財政課企画調整係 ☎22-2212
編集協力 男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会

市では、男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会の協力のもと、「男女共同参画情報紙『ハーモニー』」を平成18年1月の創刊号から発行を続け、これまでに37号の情報提供を行ってきました。今年度からその情報を市民の皆さまにより多く触れることのできるよう広報しもだに男女共同参画情報コーナーを設けさせていただきました。平成21年3月に策定した第2次下田市男女共同参画推進プラン「ひとりひとり輝くまちなちを指し〜」では、今後、男女共同参画に関する事業を進めるための重点事業として、「男女共同参画に関する意識啓発の推進」が掲げられています。

「男女共同参画」と聞くと、「なんか難しそう」「私には関係ない」と他人事と思いがちですが、家事、育児、介護、雇用、まちづくりなど、実はとても身近なところで私たちに関係しています。このコーナーは、そんな身近なことから男女共同参画を意識していただけたことができる情報を、たくさん掲載していきたいと思えます。

男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会の活動が目指すもの

下田市が男女共同参画社会を実現するために

1 子育てを考える

- 家庭でも仕事（社会）でも生き生きと生きる女性のための支援
- 男性が家庭と仕事を充実できる職場環境の改善支援

できることからやりましょう
ファミリーサポートセンター
活動の支援

2 政策や方針の決定の場への女性の参画拡大を考える

- 地域の女性リーダーの育成
- 自治会、PTA等や自主防災組織への働きかけ

できることからやりましょう
行政を通じて働きかけを行うとともに、地域での女性の活動支援

3 高齢者・生活困難者（家庭）の支援を考える

- ひとり親家庭への支援
- 育児放棄家庭、ひきこもりを持つ家庭支援
- 高齢者とのふれあい支援

できることからやりましょう
地域を結び付けるきめ細かな活動 話を聞く、相談にのる
☆地域で活動する組織との連携

地域力の向上
◎啓発活動としての「ハーモニー」の役割

「男女共同参画の視点を活かした防災対策」

3月22日、道の駅開国下田みなとにおいて、下田市と静岡県共催で男女共同参画市町連携地域実践活動推進セミナーを開催しました。NPO法人日本防災士会常任理事の橋本茂氏を招き、基調講演や広域避難所に指定されている下田中学校を想定したHUG（避難所運営ゲーム）を行い、男女共同参画の視点からの防災対策や避難所運営について話し合いました。

様々な対策について、写真を通しながらわかりやすく講義を行い「避難所運営組織の意思決定の場に女性が関わることはもはや当たり前のことである」と訴えました。続く、下田中学校を想定したHUGでは、5つのグループに分かれ、被災時に下田市内で一番大きな避難場所と想定される同中学校における避難所運営について、活発な意見交換がなされ、男女共同参画の視点を活かした防災対策はもとより、避難所運営に係る様々な諸問題に対する理解を深めました。



セミナーの様子

男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会のこれまでの活動

男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会（略称：男女（ひと）懇話会）が設立されて今年で11年目を迎えます。これまでの男女懇話会の活動について紹介します。

平成16年3月	第1次下田市男女共同参画推進プラン策定
平成16年4月	「男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会（男女懇話会）」設立 ・第1次下田市男女共同参画推進プラン策定に携わった策定委員会のメンバーを中心に設立されました。
平成18年1月	下田市男女共同参画情報紙「ハーモニー」創刊（年4回発行）
平成18年3月	託児ボランティア「しもだ子育て応援隊ほっほ」設立 ・男女懇話会の検討において、子育て支援が男女共同参画の実現に向けた重要な柱であることが提起され、その実現に向けて様々な取り組みがされました。
平成19年8月	男女懇話会伊澤英子代表が、静岡県男女共同参画社会づくり活動に関する知事褒章を受章
平成20年5月	社会福祉協議会「ひよこサロン」開設（毎月1回開催） 「下田子育て支援ネットワーク」設立
平成21年3月	第2次下田市男女共同参画推進プラン策定
平成22年4月	下田市地域子育て支援センター開設
平成24年4月	下田市ファミリーサポートセンター事業開始

上記の活動以外に、設立以降、数多くの男女共同参画学習会や研修会、講演会、他団体との意見交換会などを開催し、男女共同参画に関する様々な学習活動と課題解決に向けた取り組みを行ってきました。

参加者の意見

- ・トイレ汚物があふれた時の対応に困った
 - ・事前にグラウンドの一部に穴を掘り、トイレとして使用することや汚物を袋に入れるシステムを最初から取り入れることなどの対策が考えられる。
 - ・外国人の対応をどのようにすべきか困った
 - ・色々々な人種、宗教があるのでもっといった視点も考慮する必要がある。
 - ・HUGだけでなく、ぜひとも実際に下田中学校を舞台とした訓練を行ってみたい
 - ・男性だけではなくても避難所運営を行うことは、不可能である。女性のきめ細やかな視点が必要である
 - ・生活保護者の対応に困った
 - ・ペットの対応に困った
- ①避難所運営として、爬虫類系のペットについては、拒否をした方がよい。犬は外で対応。鳥は同種を共にすると思分けが出来なくなってしまうため、必ず分けて対応すること。

「地域力×女性力」無限大の未来

6月23日〜29日は男女共同参画週間（平成27年度「男女共同参画週間」標語）

喜びも責任も一緒に

わたしたちが毎日生活しているこの社会は、少子高齢化、国際化、情報化の進展など、日々めまぐるしく変化する中で、生活不安やストレスを感じながら生きています。

例えば、次のような現状はありませんか？

家庭では家事や育児、介護のほとんどを女性が担っている。男性は外で働いて家を支えなければならぬと思っている人が多く、仕事中心の生活になっていたり、地域では町会長などの代表職の多くが男性であったり・・・

性別役割分担意識にとらわれず、一人ひとりが自らの意思で社会に参画し、互いに喜びも責任も分かち合える社会をつくるために、すべての人がエンパワーメントすることが大切といえます。エンパワーメントとは、「人間はみな、生まれながらにして

てかけがえない個性、感性、生命力などさまざまな素晴らしい力をもっている」と信じることから出発する考え方で、一人ひとりが自分の大切さ、自分を肯定する心を持って、自己を否定する要素を取り除き、誰もが潜在的に持っているパワーや個性を生き生きと息吹かせることをいいます。

わたしらしく、あなたらしく生きるために

自分がこうしたい、こうありたいという思いを力に変え、自分で意思決定し、自分で選択していくことが、自分らしく生きるためには重要なことです。

男女共同参画社会の実現に向けて

国の男女共同参画推進本部は、平成13年度から、毎年6月23日から29日を「男女共同参画週間」と定め、男女共同参画に関する国民の理解を深めるため、さまざまな行事を行っています。